

地に足着けて頂点

新日鉄住金かずさ初V



第39回 社会人野球 日本選手権

主催：毎日新聞社 日本野球連盟
共催：大阪市

最終日・決勝

7日・京セラドーム大阪

7日の決勝は、新日鉄住金かずさマシックス（関東・千葉）が1-0で富士重工業（関東・群馬）に競り勝ち、出場7回目で初めて頂点に立った。高い投手力で勝ち上がった両チームの対戦は1点を争う接戦となったが、新日鉄住金かずさマシックスが投手4人の総投で6大会の3度目の優勝を目指した富士重工業を寄せ封じた。最高殊勲選手賞（MVP）には新日鉄住金かずさマシックスの岡本健投手、敢闘賞には富士重工業の東明大貴投手が選ばれた。（1面参照）

富士重工業―新日鉄住金かずさマシックス 六回裏暫く鉄住金かずさマシックス2死一塁内田が左前適時打を放つ―山崎一輝撮影

▽決勝（午後6時分開場）
富士重工業（関東・群馬）
000000100000

新日鉄住金かずさマシックス（関東・千葉）
000000100000

【審判】球審：橋本 三宅、殿川、谷口

新日鉄住金かずさマシックスは六回、米田の守りで得点を与えながら内野安打と四球などで、富士重工業は先2死一塁として、代・発・鼻山が切れのある打・内田の左前適時打、変化球を低めに集めてで先制。この1点が決勝点となり、先制で勝った。守りで強い投球を続けたが、は再三ピンチを背負った。二回2死満塁の先制機だが、山川、本多、加を逃すなど打線が援護できなかった。岡本の4投手による。

内田秀行選手（H19年度卒）

優秀選手（指名打者賞）受賞

岡本 健選手（H21年度卒）

最高殊勲選手賞（MVP）受賞

MVPは岡本 敢闘賞に東明

〇：表彰選手…〇

出の入社4年目。

◇最高殊勲選手賞 岡本健（新日鉄住金かずさマシックス）〇初 決勝での救援を含め3試合に登板。10回1/3を投げ15奪三振。21歳。神戸国際大付属高出の入社3年目。

◇敢闘賞 東明大貴（富士重工業）〇初 4試合に登板し、2完封で3勝。20回2/3を無失点で19奪三振。24歳。岐阜・富田高、桐蔭横浜大出の入社2年目。

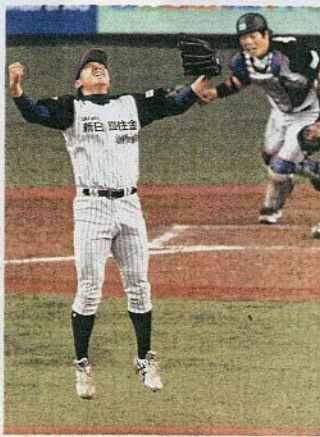
◇首位打者賞 船引俊秀（富士重工業）〇初 全5試合で安打を放った。二塁打1本を含む14打数7安打で、打率5割。25歳。岡山・関西高

◇打撃賞 田中健（新日鉄住金かずさ）〇初 18打数7安打。準決勝では試合を決める2点本塁打を放った。福岡・筑陽学園高、日大出の入社2年目。24歳。

◇特別賞 鮫島優樹投手（三菱重工業）〇初 2回戦で大会新記録の15奪三振、タイ記録の2試合連続完封を達成。鹿児島・神村学園高、MSSH医療専門学校出の25歳。

【優秀選手】▽投手 中根久貴、岡本健（以上新日鉄住金かずさ）東明大貴、鼻山太（以上富士重工業）石川歩、難波剛太（以上東京ガス）

輝幸（三菱重工神戸）▽指名打者 内田秀行（新日鉄住金かずさ）金森宏徳（JFE東日本）



優勝を決めた新日鉄住金かずさマシックスの投手・岡本（手前）と捕手・山崎一輝（山崎撮影）

5戦全て継投〇
〇：新日鉄住金かずさマシックスは5試合全

て継投で勝ち抜いた。決勝は先発・山川から小刻みにつなぎ、八回1死二塁のピンチで4番手・岡本がマウンドへ。「それまで3人がゼロで抑えていたのに、『自分も』と強い気持ちで行った」との言葉通り、4、5番打者に真っ向勝負を挑み、連続三振。九回も最後の打者を三振に仕留めた。ソフトバンクからドラフト3位指名を受けている右腕は、最高殊勲選手賞のトロフィーを手に「自分がもらっているのかな」とはにかんだ。